

App Bridge
運用支援コマンドガイド
(Linux Agent 編)

Ver. 1.19.0

目次

1. 本書の役割.....	1
2. ChangeNotification コマンド	2
2.1 コマンド概要.....	2
2.2 コマンド様式.....	3
2.3 リターンコード.....	3
2.4 コマンド格納場所.....	3

1. 本書の役割

本書は、App Bridge Monitor が提供する運用支援コマンドについて説明するものです。

2. ChangeNotification コマンド

2.1 コマンド概要

本コマンドは、App Bridge Monitor Linux Agent がインストールされた環境で、実行サーバのノード通知情報を変更します。

コマンドは、実行サーバのノード通知情報変更データを作成します。作成されたデータは、App Bridge Monitor Linux Agent により、App Bridge センタに配信され、実行サーバのノード通知情報が変更されます。

本コマンドは、Web サイトのノード基本設定を操作する行為と等価です。

Menu > ノード選択 > ノード基本設定

OK Cancel

通知メッセージを有効にする	☒
標準通知を行う	☒
電話通知を行う	☒

2.2 コマンド様式

コマンドの形式は以下のとおりです。

```
ChangeNotification    [-w (true|false)]  
                      [-m (true|false)]  
                      [-p (true|false)]
```

引数	内容	仮定値
-w	「通知メッセージを確認する」を更新します。本引数を false とした場合、当該ノードの通知メッセージは「確認状態：抑止」で作成されます。この場合、-m、-p を true に設定できません	true
-m	「標準通知を行う」を更新します	-w の値を仮定値とする
-p	「電話通知を行う」を更新します	-w の値を仮定値とする

2.3 リターンコード

コマンドのリターンコードは以下のとおりです。

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
0 以外	エラーが発生した	

2.4 コマンド格納場所

本コマンドは、/opt/ucs/bin に格納されます。